No.135
2001.
10.31

岐阜の博物館

編集兼発行
〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111
振替名古屋637909

時代の中の博物館

光記念館館長　岡崎　功

酷暑と言うも、炎暑と言うも、どうにも言葉が見つからないほどの異常な暑さに多くの死者さえ出た夏でしたが、それも一息ついてみれば、はや初秋の夜を鳴くすずやかな虫の音に万古変わらぬ時の移ろいを聞いて、今年ももう3分の2が過ぎてしまいました。新世紀、21世紀と、昔の子供が正月を迎える時のような、何かしら胸踊るような期待感をもって迎えたこの年も、迎えてみれば昨日に変わらぬつれない空は、むしろ何やら不安げで内憂外患、難題山積して、今この国は未曽有の国難に直面しているようでございます。

由来、博物館とは、あらゆる動植物を含むこの星のはじまりから、人間のルーツ、人種の起源から始めて、人の生活、生き方、考え方の足跡を示す資料の収集とその調査研究の成果を広く人々に公開して、その生活の確立と将来への展望を描く参考にして戴くための施設だと存じますが、何億年単位の化石や万年、何十万年単位の石器や土器など、ほとんど観念不可能な世界の物に触れる時、私はほんの一瞬に過ぎない自分の人生のあらゆる観念が、瞬時に白紙になってしまうような不思議な感動とある種の恐怖に似たものを感じるのが常でございます。一体自分は今何をしているのか、何を求めているのか、何に苛立ちどんな錯覚を抱えているのか、何一つ答えようのない深淵に引き込まれてゆくような何とも名状し難い感情であります。

生まれては死に、死んでは生まれ、何億年何千万年、気の遠くなるような遥かな昔からこの星の中で実に様々な生命がその神秘の循環を生きて来ました。渦巻く海底の中にプランクトンが生まれ、苔が生え、三葉虫が現れ甲冑魚がと、悠久の昔この星の上で起こった事件とは何であったのか。進化論がどんなに上手な理論を見せてくれても、私たちの中には、一片の化石の前に言葉を失ってしまう何かがある。それは一体何なのか。そういうものこそが、じつはこの複雑極まる人工の時代の中で、これからの人間の生き方を導いてくれる根源的なものなのかも知れない。そんなことを思います時、これからの博物館とは、単なる過去の物証の展示施設ではなく、人々の心に語りかけ得る芸術館であらねばならない、と、そんな思いがするのでございます。

今私たちは皆、その生き方、心の置き所に困っているのであり、途方に暮れている中で人々は近頃ようやくにしてぼんやりとながらも、自然ということばを頭に思い浮かべ始めました。しかしそれはまだまだ単なる言葉であったり観念であったりであって、決して本当の自然ではありません。言うまでもなく自然とは本来私たちの生命の根源であり、もっと端的に言えば、私たちの生命そのものであります。その己が存在の根源を忘れた文明とは肝心の命を枯渇、衰弱させていくものに他なりません。

博物館は、元来数千年の彼方から実に力強い声をもって、私たちの本然の姿を思いおこさせるいかにも貴重な品々に満ちているところでありました。それを単なる過去の形骸化した物体にしてしまうか、それとも一つ一つの展示品が力強い声を出す生き物になるか、それに接する人の態度もさることながら、私ども博物館に携わる人間が、最も心しなければならない大切なところだと感じる昨今でございます。

第88回岐阜県博物館協会公開講座報告

講座「和良川のオオサンショウウオについて」および和良村の文化財・民具等の見学

期日：平成13年6月17日（日）　13:00～16:00
場所：和良村村民会館および和良村歴史資料館
講師：中濃養護学校教諭　矢野耕二　氏
参加：115名

今回の公開講座は、郡上郡和良村において、「郡上郡文化財保護協議会町村文化財巡り」を兼ねた形で開催されました。

最初の和良村村民会館おいては、郡上郡文化財保護協会の麦島会長が開会の挨拶をされ、「地域文化財に対する研究心と愛着を持ってほしい」と呼びかけられました。和良村では郡文化財保護協会の発足により、にわかに地域の文化財発掘が進展し資料館設立までに至ったとのことでした。

中濃養護学校教諭の矢野氏による特別天然記念物オオサンショウウオの講演では、和良川で撮影した氏自作のビデオ資料を随所に織り交ぜながら、天然記念物オオサンショウウオの生態を詳しく紹介されました。

以下に、その要旨を掲載します。

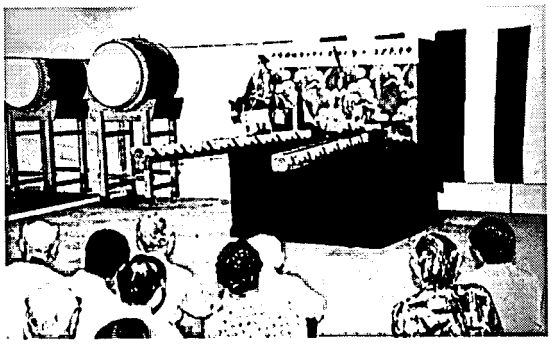
オオサンショウウオは国の特別天然記念物に指定されている世界で最も大きな両生類である。和良村では珍しくもないが、世界的には珍しい動物で、かってオランダのシーボルトが三重県で捕獲したオオサンショウウオを持ち帰ったところ、ヨーロッパで大騒ぎになったことがある。生育が確認されているのは、日本、アメリカ、中国の３カ所のみで、岐阜県の和良川と鬼谷川が日本でも生息数の多さで際だっている。

アメリカでは、「ジャイアントサラマンダ」とか「ヘルベンダー」と呼ばれており、大きなものは珍しい。和良村では「はざこ」と呼ばれているが、生息している県では「はんざき」とも呼ばれる。夜行性で昼間は岩穴にもぐるため、なかなか見つからない。どう猛で魚の臭いで餌を捕まえる。

過去、県内で何度か生息状況の調査が行われ、最近の和良村での調査では平均で体長70cm、体重約３kgであった。岡山県や板取川では1.3mもの大型が見つかっている。オオサンショウウオの孵化以降、幼生の生態はよくわかっていないのが現状である。

この後、会場を和良村歴史博物館に移しました。村内の神社に伝わる文化財や各家庭に伝わる民具などが多く展示されていて、また、歴史資料館としては異色ですが、和良村のシンボル、オオサンショウウオの生態展示もありました。文化財保護協会の方の説明のもと、参加者は皆興味深く見学しました。

最後に、戸隠神社の祭礼に氏子により奉納される「からくり」の実演が行われ、那須の与一が扇の的を射るという繊細な動作を参加者全員が見守る中、矢が命中した時は拍手で会場が湧きました。

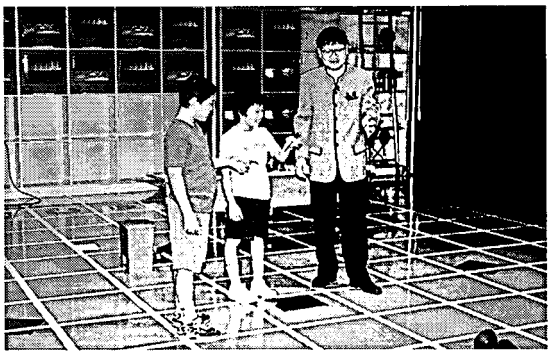


（機関紙委員　岐阜県博物館　岩田正雄）

第89回岐阜県博物館協会公開講座

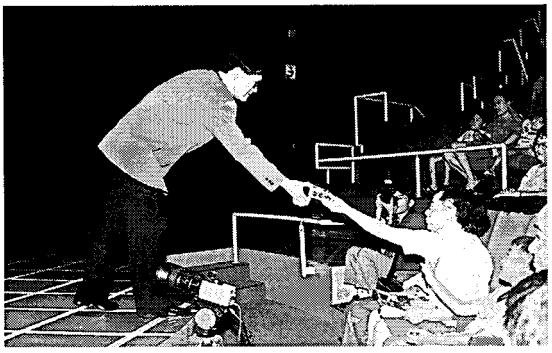
「科学演芸2001 IN サイエンスワールド」

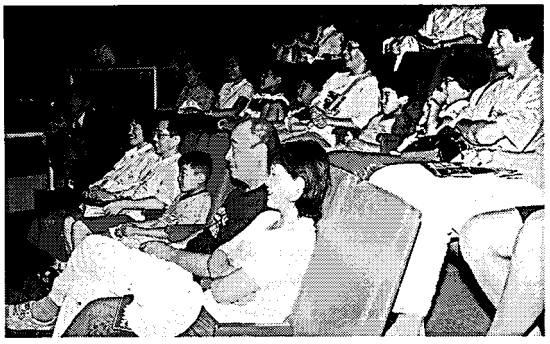
日時：平成13年7月28日・29日
場所：瑞浪市　サイエンスワールド



第89回公開講座が7月28日、29日に瑞浪市にあるサイエンスワールドで行われました。今回の講座は「科学演芸」というちょっと聞き慣れない催しで、演芸を楽しみながら科学に触れ、科学に関心を持ってもらう目的で開催されたものです。当日は、夏休みの土曜日、日曜日ということで、会場には多くの家族連れが訪れ、楽しく不思議な科学ショーを楽しみました。

7月28日の演目はMr.マサック出演の「サイエンスマジック」です。軽快な音楽とともに登場したMr.マサック。始めは彼の十八番、蛍光灯を手で点灯させる実験です。会場から小学生の女の子が壇上に上がり、蛍光灯を手にすると、不思議なことに電気もないのに蛍光灯が点灯したのです。会場に驚嘆の声があがります。次は超能力でお馴染みのスプーン曲げ。これを種明かし、いや科学的に説明すると、テコの原理を利用することで簡単に、誰にでもスプーンを曲げることができるそうです。この時、値段の高いステンレスのスプーンを使うと曲がりにくいので、安いスプーンのほうが超能力（？）ではお奨めとか。その後は、観客にあらかじめ用意していたものを当てさせる予言、また、何を書いたのかを当てる透視の超能力実験に続き、最後はトランプを使ったテレパシーの実験です。観客が自分の好きなカードを引きます。もちろんMr.マサックにはどのカードを引いたのかは分かりません。カードを持った人は自分のカードが何かをテレパシーで送ります。するとMr.マサックは、それぞれ何のカードを持っていたのかを次々と当てていったのです。見ている人たちは不思議に思いましたが、その種明かしを聞いて、納得するやらびっくりするやら。Mr.マサックによる数々の“超能力”実験に子供達は大喜びです。





超能力マジックを披露したMr.マサックは現役の物理の先生とのこと。「不思議という思いが科学を育てる。しかし、現代の子どもたちは不思議と思う感性が失われつつあり、マジックを通して子どもたちの不思議だと思う心を育てたい。」ということでした。

参加者は、Mr.マサックの軽妙な語り口と科学の法則を駆使した不思議なマジックの世界を楽しみました。

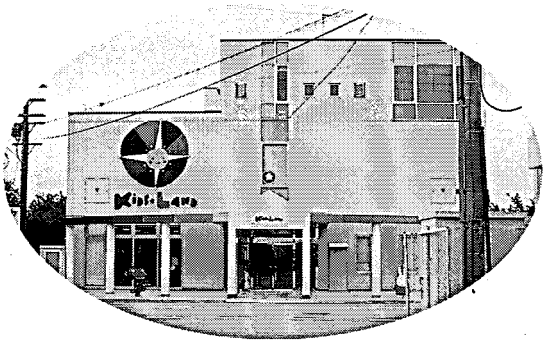
翌29日には、パントマイムで科学を楽しく、わかりやすく体験できる、ロト＆ビンゴ主演の「サイエンスパントマイム」、不思議で楽しいこまを紹介する、こまのおっちゃん主演の「こまの科学」が行われ、来場者に科学の楽しさを伝えました。

（機関紙委員　土岐市美濃陶磁歴史館　加藤真司）

館・園紹介 No.116

こども陶器博物館

〒507-0071
多治見市旭が丘10-6-67（美濃焼卸センター内）
TEL 0572-27-8038　FAX 0572-27-8039
URL http://www.kanesho.co.jp
E-mail kidsland@kanesho.co.jp



仮面ライダー、タイガーマスク、キャンディー・キャンディー。少し年輩の方は、赤胴鈴之助。現代の子どもたちなら、ポケットモンスターやとっとこハム太郎でしょうか。かつて幼い頃、お気に入りのキャラクターがデザインされた茶碗でご飯を食べた思い出のある方、現在も自分のお子さんやお孫さんがこうしたご飯茶碗を使っていらっしゃる方も多いことでしょう。昭和、平成の昔話の主人公やアニメのキャラクターがデザインされた子ども用ご飯茶碗の数々。こども陶器博物館は、懐かしい、あるいは現在人気のキャラクターに出会うことができる博物館です。

こども陶器博物館は、2000年10月にオープンしました。昭和30年代以降、子ども用の食器を生産する㈱金正陶器さんが、「長年、子どもの器を作ってきたが、子どもの“顔”が見えていなかった。これからは子どもたちが、遊び、楽しく学べる場を提供しよう。」との思いで設立されました。

こども陶器博物館を訪れると、絵本でお馴染みの五味太郎の「サル」とディック・ブルーナの「ミッフィー」が出迎えてくれます。玄関を通り、受付を済ませます。まずは2階の展示フロアを見てみましょう。ここでは昔懐かしい子供茶碗に出会うことができます。お子さま連れの方は、最近テレビで放映中のアニメキャラクターの茶碗はどうでしょうか。世代を越えたキャラクター達が作り出す空間では親子の会話も弾むでしょう。次は地下1

階に降ります。ここで五味太郎とディック・ブルーナーの原画やシルクスクリーンを見学します。彼らの作品が素敵な物語を語ってくれます。企画展示室では、人気の絵本やアニメの原画展が開催されています。是非ご覧下さい。また絵付工房で、世界でただ一つだけのオリジナル食器を作ってみてはどうでしょうか。自分の作品が出来上がった時の感動は言葉では言い表せません。そして1階のキッズステージへ。五味太郎とディック・ブルーナの絵本を親子で、あるいは一人で楽しむも良し、パソコンでゲームやインターネットをするも良し。少し疲れたら隣の「森のカフェ」で休憩しましょう。最後はミュージアムショップ。数々のキャラクター商品やオリジナルグッズの中に、お気に入りの器は見つかるでしょうか。

【交　　通】　JR中央線多治見駅北口から「桜ヶ丘」行きバス乗車、「美濃焼団地前」下車徒歩10分
【開館時間】　午前10時～午後5時
【休 館 日】　月曜日・第3火曜日
（但し月曜日が祝祭日の場合は翌日が休館）
【入 館 料】　大人300円
こども無料（小学生以下）

【ファミリー会員制】
年間500円の登録料で、その家族の1年間入館料が無料になります。

（機関紙委員　土岐市美濃陶磁歴史館　加藤真司）